

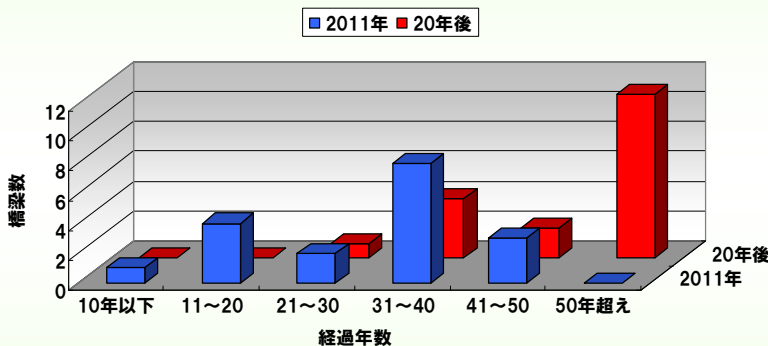


大東市橋梁長寿命化修繕計画

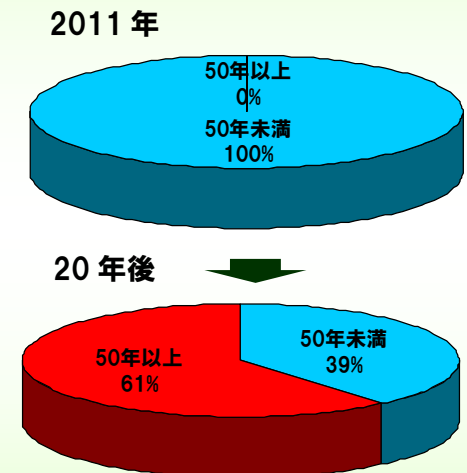
1. 背景・目的

- 大東市が管理する橋梁は高度経済成長期に建設されたものが多く、近い将来、急速に高齢化橋梁^{※1}が増加します。
- 高齢化橋梁の増加に伴い、高齢化橋梁の安全性や信頼性を確保するためには、橋梁の修繕・架替えに要する経費の増加が見込まれます。

●平成 23 年度計画策定橋梁 21 橋の橋齢分布



●高齢化橋梁の分布の推移^{※2}



※1 高齢化橋梁：一般的には建設後 50 年以上を経過した橋梁を指します。

※2 上記の「高齢化橋梁の分布の推移」は、平成 23 年度計画策定橋梁 21 橋によるものです。

- このような背景から、橋梁を長寿命化し、合理的・効率的な維持管理を行うことにより、可能な限りのコスト縮減に取り組むことが不可欠です。
- 大東市では、平成 23 年度から長寿命化修繕計画策定に向けた検討に着手しました。（平成 23 年度対象橋梁は、特に重要と考えられる 21 橋を抽出）

2. 橋梁維持管理における基本的な方針

- 大東市が管理する橋梁の安全性と信頼性を確保するため、「道路橋に関する基礎データ収集要領（案）」に基づいた定期点検を実施し、橋梁の損傷状態を継続的に把握します。
- 橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロール、清掃等の実施を徹底します。
- 予防的な補修対策を計画的に実施することで、橋梁の健全性を回復して安全性を確保するとともに、長寿命化によりライフサイクルコスト^{※1}の縮減を図ります。この目的で策定した維持管理計画が「道路橋の長寿命化修繕計画」です。

※1 ライフサイクルコスト

：一般的には、道路橋を維持管理する費用（維持管理コスト）、使えなくなった道路橋を架替える費用（更新コスト）のトータルコストを表します。

3. 橋梁点検の結果

- 橋梁長寿命化修繕計画を策定するにあたっては、橋梁点検を実施し、管理橋梁の現状を把握することが重要です。
- 平成 23 年度に長寿命化修繕計画を策定する橋梁 21 橋については、概ね健全な状態でしたが、一部の橋梁で補修が必要な損傷が確認されました。これらの損傷に対しては、早期に補修対策を行う計画としています。



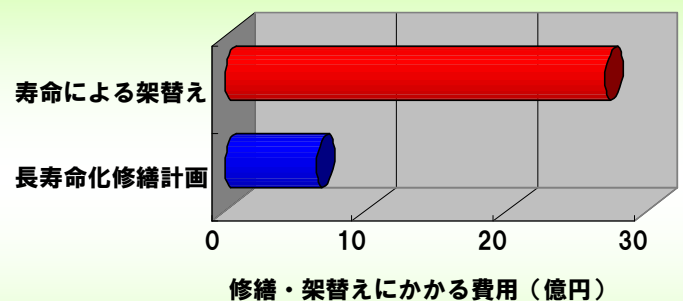
橋脚（橋を支える脚）にひびわれが多数発生していました。



鋼製の橋桁の塗装が劣化し、錆が広範囲に発生していました。

4. 長寿命化修繕計画策定による効果 （平成 23 年度対象橋梁 21 橋の試算結果）

- 長寿命化修繕計画を策定し、計画に基づいて適切な時期に補修対策を実施することによって、寿命での架替え^{※1}を実施した場合と比べて、今後 50 年間で約 7 割のコスト削減が見込まれます。



※1 寿命での架替え

：橋梁点検による損傷確認を行わず、補修計画も策定せず、放置したまま寿命を迎えた時期に架け替えた場合を想定しています。

5. 学識経験者への意見照会

大東市橋梁長寿命化修繕計画を策定するに当たり、
大阪産業大学 飯田 毅 教授（平成 24 年）にご意見をいただいております。

6. 計画策定担当部署

大東市 街づくり部 土木課 TEL：072-872-2181